事例No.	2502
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	論田自治会及び熊無自治会、ろんくま移住促進委員会

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・関係人口 ・地域運営組織

事例種類	移住・定住促進

事例内容・タイトル

～ねこ”ろん”で”くま”なく歩いて住んでみて～　ろんくま移住促進計画

出典

令和5年度優良事例表彰一覧

全国過疎地域連盟会長賞

富山県氷見市

論田自治会及び熊無自治会、ろんくま移住促進委員会

～ねこ"ろん"で "くま"なく歩いて 住んでみて～ ろんくま移住促進計画



すり鉢型の地形に森や集落が点在した、人と自然が織りなすろんくまの景観。

審査講評

評価のポイント

- 多様な地域づくりの取組を通じて、地域の内外の風通しを良くし、関係人口の広がりが移住者受け入れに向けた前向きな機運醸成につながっている点。
- 日常の活動をベースにしながら移住促進にも取り組むことで、各々の自治会の特徴を打ち出し人材を補完し合うことができ、「ろんくま移住促進計画」として戦略を形にし、魅力の発信、受け入れ態勢を充実させつつある点。

審査委員のコメント

“地域の味”を活かしながら、伝統を次世代へと受け継ぐ。

600年の伝統がある藤箕（ふじみ）や、地域の味である草もち、伝承料理などを地元里山に根差した資源と認識し、地元でのイベント開催時や市内の直売所で販売、提供することで関心を呼び、論田・熊無地区の前向きな姿勢を常に発信しています。他方で、さまざまな場面で担い手の高齢化にも直面し、藤箕の技術を受け継ぐ人材の育成、草もち加工でも技術だけでなく経営・雇用体制を含めた事業承継、集落運営でも「集落の教科書」づくりを通じた現状の棚卸しの作業などを進め、次世代への地域継承を求める機運の高まりが見出せています。



取組の概要

地域資源を活かしながら、住民にとってさらに住み良い地域、移住者など地域外から人が訪れる地域を目指し、地元特産の草もちの事業承継、自治会の負担を減らすためのLINEでの電子回覧板の運用、地元文化財を巡るウォーキングイベントの実施、マスコットキャラクターなどの制作といったさまざまな地域を盛り上げる取組を展開している。

各取組にキーパーソンがおり、世代間でバトンが受け継がれているほか、移住者や大学など地域外からの風が流れ込み、好循環が生み出されている。



春の桜を楽しみながら地域の文化財を巡る大人気ウォーキングイベント。



ろんくまマスコットキャラクターの「くまなしくまタロー」と「ろんくまチャン」。



ろんくま移住促進委員会の様子。地元住民、行政、大学が連携し、移住促進に向けた取組を検討。



地元で採れたヨモギやもち米でつくる「草もち」は地域の宝。次の世代へ地元の味と思いをつなぐ。

取組のKEY PLAYER



内 毅さん
［ろんくま移住促進委員会　会長］



中原 修さん
［ろんくま移住促進委員会　副会長］

多角的な取組の実現は、地域の協力があってこそ。

令和元年度の富山県の「中山間地農業再生支援事業」への取組を契機に、「ろんくま」（論田・熊無地区）が連携して暮らしやすい地域づくり、地域の活性化に取り組み始めました。現在は地域の特産品である草もちや藤箕、伝承料理の継承や、花の里ウォーク開催、マスコットキャラクター、集落の教科書作成など、さまざまな取組を行っています。一方で人口が減っていく中、今後活動の中心となる世代から負担を懸念する声も出ていますが、皆で協力しながら歩んできた地域の地力と地域外からの力をお借りし、課題解決に取り組んでまいります。

審査による現地調査でのヒアリング対象者

内 毅さん［ろんくま移住促進委員会 会長］／**中原 修**さん［ろんくま移住促進委員会 副会長］／**伊東 翼**さん［ろんくま移住促進委員会 事務局］

富山県氷見市

団体名 …… 論田自治会及び熊無自治会、ろんくま移住促進委員会
所在地 …… 〒935-0258 富山県氷見市論田2057-3（論田自治会）
〒935-0251 富山県氷見市熊無887-2（熊無自治会）
連絡先 …… TEL：090-9108-2314（ろんくま移住促進委員会事務局 伊東）
E-mail：ronkuma.himi@gmail.com
URL：https://ronkuma.com/



自治体・団体の詳細はこちらからご覧いただけます。